

IGES 公益財団法人
地球環境戦略研究機関

北九州アーバンセンター

持続可能な都市を目指して



脱炭素社会



循環経済



SDGsのローカライ
ゼーション

IGES北九州アーバンセンターとは



北九州アーバンセンターは、公益財団法人地球環境戦略研究機関 (IGES) の5つあるサテライト・オフィスのひとつとして、北九州市にて活動しています。脱炭素社会、循環経済、SDGsを専門領域として、これらの分野における地域拠点となるべく、国内外の自治体や国、民間企業、大学、市民団体、国際機関などと密接に連携した研究や事業を進めています。

また、北九州市をはじめとした国内の自治体と海外都市との連携のもと、国内の優れた環境技術や政策枠組、実施ノウハウを海外に移転・実装化するための支援や人材育成を行っています。さらに、学校や地域団体への講義・講演活動や、地元企業・団体との連携を通じた地域レベルの持続可能な社会づくりに貢献しています。

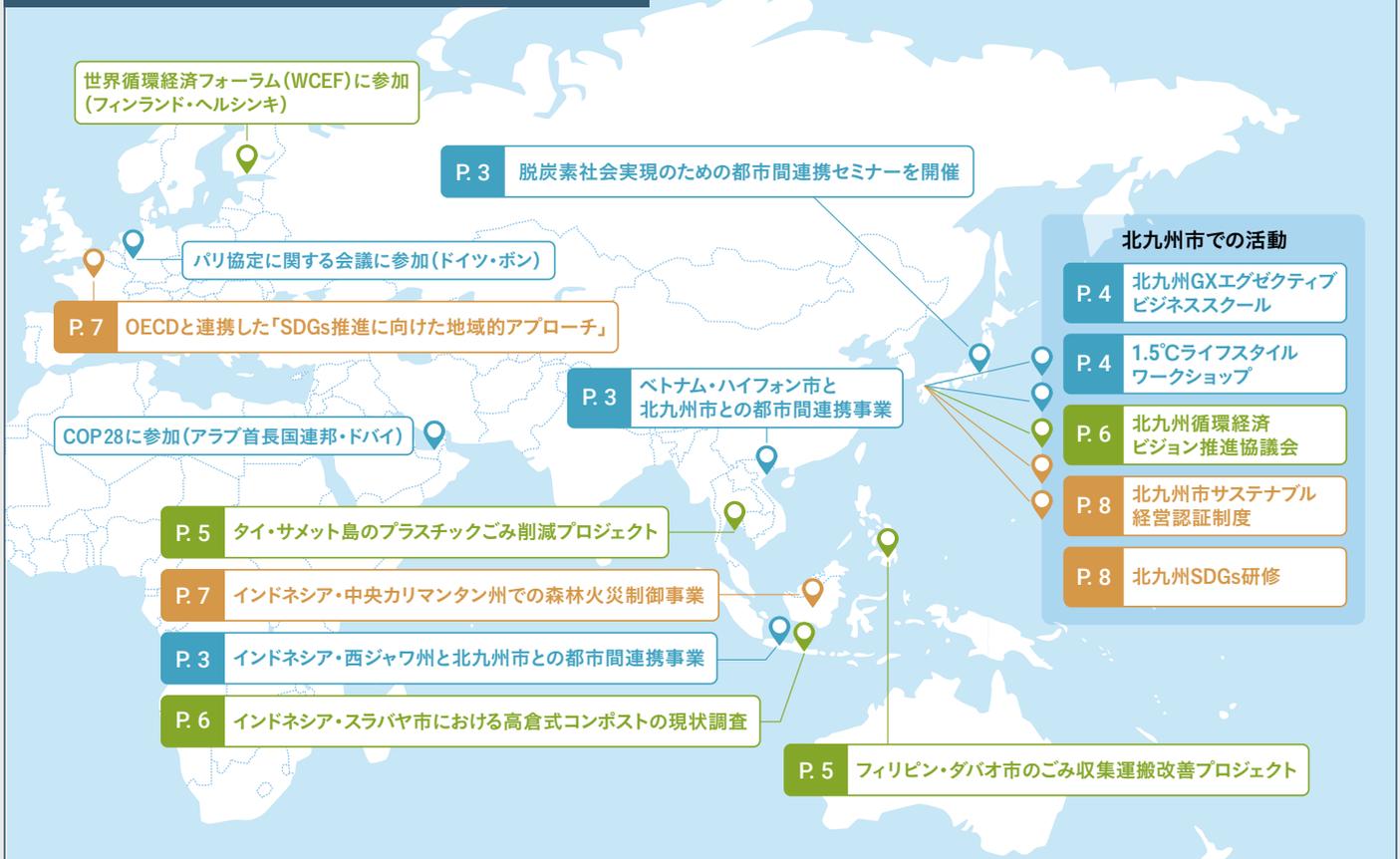


IGES北九州
アーバンセンターの
ミッション

都市を対象に3つの分野 **脱炭素社会** **循環経済** **SDGs** で活動し、九州の地域拠点として、持続可能な都市の実現を目指す。

IGES北九州アーバンセンター 近年の主な活動フィールド

📍 脱炭素社会 📍 循環経済 📍 SDGsのローカライゼーション



公益財団法人地球環境戦略研究機関 (IGES) 組織概要

設立経緯

- 1998年 4月 財団法人地球環境戦略研究機関発足
- 1999年10月 北九州事務所を開設
- 2010年 4月 北九州事務所から北九州アーバンセンターへ改称
- 2012年 4月 公益財団法人に移行

	職員数	外国籍職員 (内数)
戦略研究事業	168	50
その他の公益目的事業	26	10
管理部門	26	0
合計	220	60

(2024年6月30日現在)

研究活動 拠点

- 北京事務所
- 東京サステナビリティフォーラム
- IGES葉山本部
- 関西研究センター
- 北九州アーバンセンター
(国際村交流センター内)
- バンコク地域センター



ゼロカーボンシティの取り組みを強化する

国際的な都市間連携のもと脱炭素社会を実現

「脱炭素化」をテーマに都市間での交流を促すことで、効率的かつ効果的にソリューションを導き出すことができます。私たちは日本と海外の都市間の交流を支援し、海外の都市の脱炭素化を推進しています。国内の自治体の環境管理のノウハウと企業のソリューションをパッケージにした技術移転を進める他、視察・研修による人材育成などを行っています。

2023年度は、環境省の「脱炭素社会実現のための都市間連携事業」*1の実施支援に加え、同事業の下で展開される調査案件にも参画することで、地域脱炭素の機運醸成を図るとともに、国内の自治体や企業が有する優れた脱炭素技術の海外展開の支援を行いました。



普及促進

脱炭素社会実現のための都市間連携セミナーを開催

都市間連携事業に参画する国内外の自治体・ステークホルダーが一同に会するセミナーを東京にて4年ぶりに開催し、多くの知見が共有されました。

セミナーの様子 >



調査案件

1

ハイフォン市と北九州市の連携でエコ工業団地推進を支援

ベトナム北部最大の港湾都市であるハイフォン市と姉妹都市である北九州市が連携し、北九州市が有するエコタウンや脱炭素化技術の導入ノウハウの移転、ハイフォン市内の工業団地のエコ工業団地推進を支援する調査活動を実施しました。



△現地関係者による日本での視察の様子

調査案件

2

西ジャワ州におけるセメント産業の脱炭素化を支援

2060年までにカーボンニュートラルを目指すインドネシアにとって、エネルギー消費やCO₂排出が大きいセメント産業の脱炭素化は重要課題です。本プロジェクトでは、北九州市や企業・関係機関と共に、セメント産業のサプライチェーン全体のCO₂排出削減を目指し、現地調査を実施しました。



△現地調査の様子

*1 脱炭素社会実現のための都市間連携事業：2013年度に始まった事業で、毎年度20件近くの調査案件が採択されている。これまでに海外13カ国から49都市・地域が、日本からは20自治体が参加している。(2023年度時点)

ゼロカーボンシティとは

2050年に二酸化炭素排出を実質ゼロにすること（≒脱炭素・カーボンニュートラル）*2を目指すことを発表した自治体を「ゼロカーボンシティ」といいます。2024年6月現在、日本全国で1112の自治体がゼロカーボンシティを宣言し、持続可能なまちづくりに取り組んでいます。



九州から日本国内外に脱炭素の輪を広げる

地域の脱炭素化に向けて具体的なアクションを起こしていく中で、自治体と地域のステークホルダー（住民、事業者など）との連携は欠かせません。私たちは地域の多様なステークホルダーの意識啓発・人材育成を通じて地域の脱炭素化を推進しています。



企業・経営層
向け

「北九州GXエグゼクティブ
ビジネススクール」を開催

2050年カーボンニュートラル達成に向け、日本国内外で経済社会システム全体の変革（GX：グリーントランスフォーメーション）への動きが加速しています。北九州市は、この動きを成長の機会と捉え、官民GX投資を呼び込むために『北九州GX推進コンソーシアム』を設立しており、私たちがボードメンバーとして参画しています。2023年度は、コンソーシアムの一環として、市内企業の経営層向けビジネススクール（北九州GXエグゼクティブビジネススクール）を事務局として主催するなど、北九州市のGX推進に貢献しています。



出典：北九州GX推進コンソーシアムウェブサイト <https://ktq-gx.com/>

学生向け

「1.5°Cライフスタイル
ワークショップ」を開催

パリ協定の「1.5°C目標」*3の達成に向けて、日常生活から排出されるCO₂排出量（ライフスタイル・カーボンフットプリント*4）を、日本全体で平均して2030年までに67%、2050年までに91%削減する必要があります。私たちは、CO₂の排出を減らしながら、生活の質も高めるライフスタイル（1.5°Cライフスタイル）の普及啓発を目的とした市民参加型のワークショップをデザインし、自治体や地元の団体と連携して開催しています。2023年度は福岡県在住の学生を対象に、「食」の分野を中心に1.5°Cライフスタイルを考え、体験するワークショップを行いました。



△ 食品ロス削減を考慮したレシピを作る調理実習

*2 脱炭素・カーボンニュートラル：温室効果ガスの排出量と吸収量が均衡する状態のこと。ここでいう温室効果ガスは、二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、フロン類が含まれる。（出典：地球温暖化対策の推進に関する法律）

*3 1.5°C目標：地球の平均気温の上昇を産業革命前と比べ1.5°Cに抑えようとする国連のパリ協定の目標

*4 ライフスタイル・カーボンフットプリント：家計が消費する製品やサービスのライフサイクル（資源の採取、素材の加工、製品の製造、流通、使用から廃棄）において生じる温室効果ガスの排出量

限りある資源が効率的に 循環する社会を目指す

大量に生産・消費・廃棄するというユニア（一方通行）型の経済システムが原因となり、廃棄物の増大や海洋汚染、生物多様性の損失といった地球規模の問題が発生しています。

私たちは、脱炭素社会の実現に不可欠な資源を循環させるサーキュラー型の経済システム（以下、循環経済）への転換を目指し、国際機関、自治体、大学、企業などと連携し、地域レベルの政策立案の支援や具体的な事業の創出に取り組んでいます。



海外での取り組み

タイ・サメット島の プラスチックごみ削減プロジェクト

タイ・ラヨン県の観光名所サメット島で、島内で発生する廃プラスチックを対象に、回収～処理～再利用が完結する循環モデル構築を目指すプロジェクトに参加しています。

本プロジェクトでは、島内で発生する廃プラスチックを回収し、油化装置で再生油を取り出す実証実験を進めています。また、無分別状態で回収される廃棄物の中から異物を取り除いて、廃プラスチックの含有率を上げて、効率的に再生油を取り出す仕組みづくりや、島内のステークホルダーを中心とした組織づくりを進めることで、分別回収、収集の体制づくりを進め、現地の組織が主体的に持続可能な事業モデルを構築することに取り組んでいます。



▲ 実証実験を進める廃プラスチックの油化装置

フィリピン・ダバオ市の ごみ収集運搬改善プロジェクト

国際協力機構（JICA）の草の根事業を通して、北九州市の環境姉妹都市であるフィリピン・ダバオ市において、ごみ収集ルートや資源ごみ収集施設を設置するなどして効率の良い廃棄物収集運搬を推進する活動を展開しています。また、現地の小学校と協力して地域清掃活動の支援などを行っています。



▲ 現地の小学校との清掃活動

循環経済とは

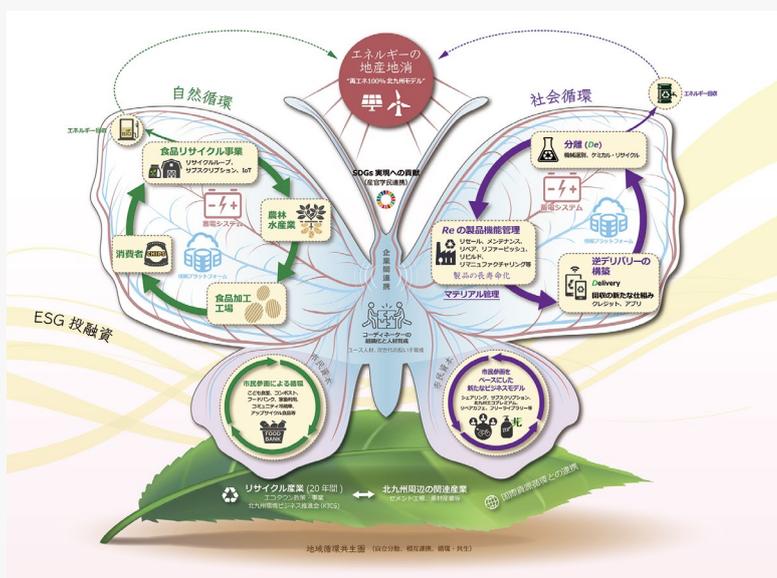
製品が再利用、修理・修繕、再生、リサイクルされる、もしくは共有される経済システムです。これらは、資源や製品の価値を最大化し、資源の採掘や、エネルギーの消費、廃棄物の発生を削減するものです。環境への影響を最小限に抑えるかたちでの資源供給や資源循環を意味します。



国内での取り組み

北九州循環経済ビジョン推進協議会

北九州循環経済ビジョン推進協議会のメンバーとして、「北九州循環経済ビジョン」の実現に向けた取り組みを行っています。2023年度は、新たに立ち上がった5つの分科会の内、「バイオマス利活用分科会」のメンバーとして参加し、若松区内のバイオマス資源の利活用に係る事業化の検討を進めています。また、北九州市立大学、九州工業大学と連携し、プラスチックの資源循環に関する研究費を獲得しました。



北九州循環経済ビジョン図

ハイブリッドセミナー「日本循環経済の未来に向けて」を開催

九州大学アジア・オセアニア研究教育機構、Holland Circular Hotspotと共催で、ハイブリッドセミナー「日本循環経済の未来に向けて」を開催し、北九州における循環経済を推進するさまざまな取り組みを紹介しました。



セミナーのフライヤー

インドネシア・スラバヤ市における高倉式コンポスの現状調査

北九州市とインドネシア・スラバヤ市は環境姉妹都市として、20年以上にわたり環境分野で連携してきました。特に、北九州市による技術協力の一環として開発された「高倉式コンポスト」は、現地で容易に入手できる資材や発酵食品などを活用して、安価に導入できる高効率なコンポスト手法として、インドネシア国内外で広く普及・認知されています。2024年は「高倉式コンポスト誕生20周年」を迎えることもあり、考案者の高倉弘二氏とともに、高倉式コンポスの過去20年間の推移・現状・成果・課題についての現地調査を行いました。



考案者の高倉氏：現地調査の様子

SDGsを活用し、地域課題の統合的な解決を促進する

持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals : SDGs) は、2030年までに、すべての国が17の目標や具体的な169のターゲットを達成することを目指しています。「誰ひとり取り残さない」理念のもと、国だけではなく、自治体や企業、学校、団体、市民などあらゆるステークホルダーがアクター(当事者)となり、残された時間の中で行動していくことが求められています。私たちは、世界共通言語となったSDGsを地域にわかりやすく広め、ローカル(地域)における課題を統合的に解決する手段としてSDGsのローカライゼーションに取り組んでいます。



海外での取り組み

インドネシア・中央カリマンタン州で 森林火災を抑制する事業を地域のステークホルダーと実施

インドネシアでは乾季に森林・泥炭地で火災が多発し、森林減少や煙害が社会問題となっています。特に炭素を多く含む泥炭地での火災から放出される大量のCO₂は地球温暖化をもたらすことから国際的にも懸念されています。私たちは、北九州市に本社を置くシャボン玉石けん株式会社と国際協力機構 (JICA) のSDGsビジネス支援事業を実施しています。同社が開発した環境に優しく、浸透性が高い消火剤を、泥炭地が多い中央カリマンタン州で実証し、途上国に適した形での普及に取り組んでいます。

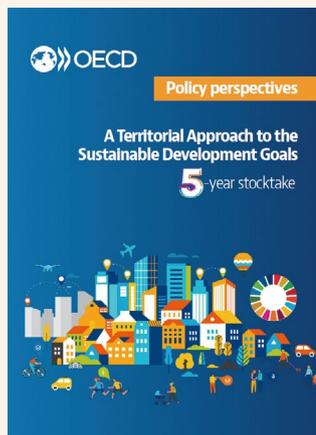


▲現地ステークホルダーとの意見交換



▲事業内容をまとめたポスター

<https://iges.or.jp/pub/indonesia-shinrin-deitan-chi-kasai-no-shoka-gijutsu-fukyu-jishsho/ja>



▲プログラム5周年記念の刊行物

OECDが実施する世界の都市・地域向けSDGsプログラム 「SDGs推進に向けた地域的アプローチ」に貢献

フランス・パリに本部を置く経済協力開発機構 (OECD : Organisation for Economic Cooperation and Development) は、北九州市を含むSDGsに積極的な世界の都市や地域が互いに学びあうピアラーニング・プログラム「SDGs推進に向けた地域的アプローチ (原題 : A Territorial Approach to the SDGs)」を実施しています。私たちは、このプログラムの有識者委員会の委員として、世界の都市・地域の横断的なアウトプットの作成に貢献しています。

出典 : OECD, A Territorial Approach to the Sustainable Development Goals Policy perspectives 5-year stocktake
<https://www.oecd.org/en/about/programmes/oecd-programme-on-a-territorial-approach-to-the-sdgs.html>

地域の現場から英語で学ぶ
SDGs研修を毎年開催

私たちは、地域の現場からSDGsを英語で学ぶ「北九州SDGs研修」を2019年から毎年開催しています。一般公募で大学生を中心とした参加者を募り、環境から経済、社会への波及効果を創出している日本のSDGsの好事例を、実際に仕事に従事している人々から学び、持続可能な社会へ貢献する人材を育成するプログラムです。

これまで、SDGsの国際潮流やローカルアクション、再生可能エネルギーを核にした新産業創出などのテーマで、北九州市に加え、長崎県五島市にも訪問を広げてきました。

第6回目となる2024年度の研修は、文部科学省のユネスコ活動費補助金の「SDGs達成の担い手育成推進事業」としても採択されました。持続可能な開発のための教育（ESD）の視点についても強化し、神奈川県、徳島県上勝町、北九州市、熊本県水俣市に舞台を拡大して開催します。



＜ファシリテーションツールを用いた研修の様子

SDGsや環境問題を学ぶ機会を
国内外に提供

SDGsや環境問題に関する講座・ワークショップの開催や、視察の受け入れを日本語と英語の両言語で行っています。2023年度は、北九州市内の高校による探究学習のフィールドリサーチや海外の大学・大学院生の視察団を受け入れ、ワークショップを行ったほか、北九州アーバンセンターのオフィスがある北九州市八幡東区の地域イベントの一環として、環境問題をわかりやすく解説する講座を実施しました。



△小倉高校のフィールドリサーチにてカードゲーム「2030 SDGs」を実施



△さくらサイエンスプログラム事業により来日したインドネシアの大学生視察団を受け入れ



＜地域イベント「やはたアートフォレスト」にて「環境の専門家と楽しく学ぶ“循環型社会”ってなんだろう？」を開催

「北九州市サステナブル経営認証制度」の設計・運営をしています

北九州市では、市内企業のSDGsの取り組みを後押しするためにさまざまな制度を構築・実施してきました。その一環として、より高みを目指し、SDGsを経営に取り入れる企業の取り組み（SDGs経営の体制整備及び実践）を支援することを目的に「北九州市サステナブル経営認証制度」の構築を検討し

ています。私たちは、2022年度にこの制度設計業務を受託し、認証制度案を取りまとめ、2023年度は金融機関、市内企業、専門家などの意見を反映した詳細な制度設計を進め、2024年度以降の具体的な制度実施に向けた支援を進めています。



北九州アーバンセンターの近年の出版物



アジアの脱炭素化に貢献する北九州市 ～「150%削減目標」の捉え方～

2023年8月 | 日本語版

著者：赤木 純子 | 出版者：地球環境戦略研究機関

本稿は、北九州市の「150%削減目標」の意義や、その目標達成に向けたアプローチを確認した上で、政策効果の「見える化」の方法論について検討を行いました。「150%削減目標」が数値目標であることを踏まえ、北九州市の取り組みのうちGHG排出削減量を把握できそうなものを特定し、評価方法の比較や、取り組みから期待される経済的・社会的効果について整理しています。

🔗 iges.or.jp/en/pub/kitakyushu-150-sakugen-mokuhyo/ja DOI : 10.57405/iges-13089



Are Waste Banks a Key Contributor to Recycling in Indonesia? Case Study of Medan City

2023年7月 | 英語版

著者：Kohei HIBINO、Tengku KEMALA INTAN、Fritz AKHMAD NUZIR、Darmawan SRIYANTO、Premakumara Jagath DICKELLA GAMARALALAGE

出版者：AIP Conference Proceedings

ごみ銀行は、廃棄物の分別とリサイクルを促進する、コミュニティベースのユニークな廃棄物管理システムです。本稿は、メダン市で特定されたすべてのごみ銀行を対象に調査を行い、分析結果を取りまとめたものです。

🔗 iges.or.jp/jp/pub/are-waste-banks-key-contributor-recycling-indonesia-case-study-medan-city/en
DOI : 10.1063/5.0129226



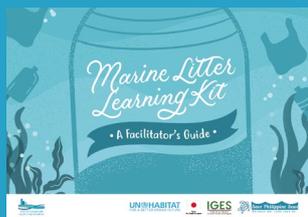
かごしま1.5°Cライフスタイルワークショップ

2022年12月 | 日本語版

著者：大田 純子、赤木 純子、鹿児島市、合同会社hataori | 出版者：地球環境戦略研究機関

2022年8月～10月に鹿児島市で開催した「1.5°Cライフスタイルワークショップ」の報告書です。個人のライフスタイルを変えることで温室効果ガス排出量を削減し、生活の質も向上する「1.5°Cライフスタイル」を普及するため、鹿児島県在住の若者を対象に約3か月間行いました。本書では、開催概要を紹介し、参加者が考える1.5°Cライフスタイルのアイデアなどを記録しています。

🔗 iges.or.jp/jp/pub/kagoshima-15-lifestyle-workshop/ja DOI : 10.57405/iges-12891



Marine Litter Learning Kit: A Facilitator's Guide

2022年9月 | 英語版

著者：高倉 弘二、日比野 浩平、ラヴティザー・ヴェスナ、Anna R. OPOSA、Virginia MARINEL F. SALAZAR
出版者：UN Habitat Regional Office for Asia and the Pacific (ROAP)

“Marine Litter Learning Kit: A Facilitator's Guide”は、海の漂着・漂流ごみをテーマとした教育プログラムの指導者向けガイドブックです。学習者の年齢や状況などに合わせて活動内容を選択できるように設計されており、学習者は体験学習やゲームを通して実践的に学ぶことができます。

🔗 iges.or.jp/jp/pub/hocci-mlk-un-habitat/en



Performance of Takakura Composting Method in the Decentralised Composting Center and its Comparative Study on Environmental and Economic Impacts in Bandung City, Indonesia

2022年7月 | 英語版

著者：Kohei HIBINO、Koji TAKAKURA、Sudarmanto Budi NUGROHO、Ryoko NAKANO、Ria ISMARIA、Tati HARYATI、Deti YULIANTI、Eric ZUSMAN、Junichi FUJINO、Junko AKAGI

International Journal of Recycling of Organic Waste in Agriculture所収、Volume (Issue) : 12

高倉式コンポスト手法は、現地で容易に入手できる資材を用いたシンプルで安価なコンポスト手法として、インドネシアをはじめとする諸外国で広く導入されています。本研究では、インドネシア・バンドン市の小規模分散型コンポストセンターにおいて、有機系廃棄物の投入量を1トン/日までスケールアップした経過を追跡調査するとともに、環境および経済への影響を評価する比較研究を実施しました。

🔗 iges.or.jp/jp/pub/ijrowa2023-12/en DOI : 10.30486/IJROWA.2022.1945234.1379



私たちが提供するプログラム例

北九州GXエグゼクティブビジネススクール

全国初の取り組みとして、企業の経営層や次世代の経営を担う人材を対象に、GX（グリーントランスフォーメーション）をテーマに掲げたビジネススクールを開催しています。北九州市、北九州工業高等専門学校、公益財団法人北九州産業学術推進機構と連携し、多様な分野の専門家とともに、私たちが講師としてレクチャー、ワーク

ショップを行っています。全6回のプログラムを通して、参加者が自社の脱炭素経営について自らの言葉で語れるようになることを目標とし、さまざまな観点からGXを学ぶことができるスクールです。2023年度の様子はこちらからご覧いただけます。

x.gd/F268r



ワークショップの様子



レクチャーの様子

ファシリテーションツールを用いたSDGsに関する講座やワークショップ

学校、企業、団体、市民センター、自治体などに向け、用途に応じて企画しています（日本語と英語どちらでも対応可）。お気軽にご相談ください。下記ファシリテーション技法を用いたワークショップや様々なトピックに合わせたレクチャーをご提供できます。

カードゲーム「2030 SDGs」

経済、環境、社会が相互に影響しあう世界や気づきによる人間の行動変容をシミュレーションするカードゲームです。

imacocollabo.or.jp/2030sdgs/



カードゲーム「2030 SDGs」のワークショップ

Sustainable World BOARDGAME

社会の異なるアクターを演じ、限られた年間予算と時間で、17のゴールと自分のゴール達成のために、日本全国をめくり駒を進めるボードゲームです。

future-tech-association.org/sdgs-activity

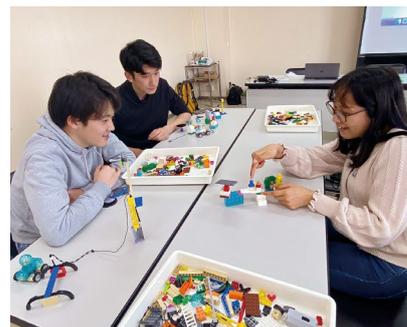


Sustainable World BOARDGAME

LEGO®SERIOUS PLAY® レゴシリアスプレイ

レゴ・ブロックを使って、内在する考えや物事を可視化し、想像力やコミュニケーションを活発にします。戦略やビジョンづくり、チームビルディング、自己開発などに活用できます。

seriousplay.jp



レゴシリアスプレイのワークショップ



国際村交流センター（東側外観）

北九州
アーバンセンター
スタッフ

- | | | | | | | | |
|---|---|---|---|--|---|---|---|
|  |  |  |  |  |  |  |  |
| 鹿毛 浩之
所長 | 林 志浩
プログラム
ディレクター | 赤木 純子
リサーチ
マネージャー | 日比野 浩平
プログラム
マネージャー | 大田 純子
研究者 | 安東 章子
総務課長 | 堀苑 志乃
プログラム
コーディネーター | 前畑 奈央
プログラム
コーディネーター |

**公益財団法人地球環境戦略研究機関 (IGES)
北九州アーバンセンター**
〒805-0062 北九州市八幡東区平野1-1-1 国際村交流センター3F
TEL: 093-681-1563 FAX: 093-681-1564
E-mail: kitakyushu-info@iges.or.jp

公益財団法人地球環境戦略研究機関 (IGES) 葉山本部
〒240-0115 神奈川県三浦郡葉山町上山口2108-11
E-mail: iges@iges.or.jp
URL: iges.or.jp

■ IGES公式ウェブサイト 北九州アーバンセンター組織紹介



iges.or.jp/jp/about/research-units/kitakyushu-urban-centre

■ 北九州アーバンセンターFacebookページ



facebook.com/iges.kuc

■ 北九州SDGs研修ウェブサイト



sdgs-kitakyushu.iges.jp



JR九州 > 鹿児島本線「八幡駅」から徒歩約15分
西鉄バス > 「国際村交流センター前」から徒歩約3分
「西本町四丁目南」から徒歩5分

表紙写真: 国際村交流センター(中庭)

公益財団法人地球環境戦略研究機関 (IGES) は、アジア太平洋地域における持続可能な開発の実現を目指し、実践的かつ革新的な政策研究を行う国際研究機関です。